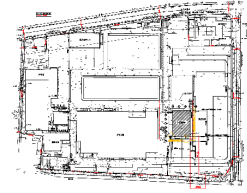




■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■バージョン: CASBEE横浜2017年版v.1.6

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MOT再編第一期工事(新厚生棟)	階数	地上2F
建設地	横浜市鶴見区山下町二丁目1035-10(一)部、1035-15 1035-16 1035-17 1035-23 1035-24	構造	S造
用途地域	近隣商業地域・準工業地域・防火地域・準防火地域	平均居住人員	220 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,680 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	
竣工年	2023年4月 竣工	評価の実施日	2019年7月18日
敷地面積	3,770 m ²	作成者	清水建設 佐藤
建築面積	1,354 m ²	確認日	2023年3月27日
延床面積	2,661 m ²	確認者	清水建設 佐藤



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.9

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
工場サイト内に分散した事務・厚生機能を1棟に集約させて、エネルギーの効率化を図る。		今回届け出建物の新築以外に、敷地内の小規模で老朽化した建物を撤去し、既設建物・新設建物に機能を集約させる改修工事も同時に行う。工場全体のエネルギー消費の効率化、既設第一工場の移転により、企業全体のエネルギー高効率化と、敷地内工場跡地を緑地とすることにより、環境への配慮とした。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
食品工場の事務・厚生施設の用途より、防虫の機能が求められる建物である。そのため、窓はFIX窓(複層ガラス)、出入り口は風除室を経由するため、温熱環境の外乱を低減する仕様としている。	1階階高に余裕をもたせ、床スラブをフラットにして、将来の建築・設備の更新計画を有利に行えるよう配慮した。	既存第一工場を撤去して緑地に更新し、既存緑地・樹木を活用して敷地内緑地を整備する。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
照明設備は全てLEDとし、消費エネルギーを大幅に低減させた。	木材を使用しない仕上計画とした。	今回新設建物は2階建て高さ11.4mなのに対し、北・東・南面を囲む既設建物は3、4階建て高さ20m前後あり、周辺敷地から見えない位置関係となっている。また、西側道路からは100m以上離れており、敷地外の環境に及ぼす影響は極めて少ない。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

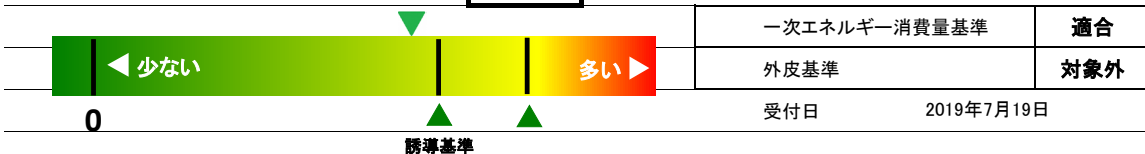
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。

建物名称 MOT再編第一期工事(新厚生棟)

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 **3**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **26** %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①屋根:ダブル折版、外壁:外壁裏面に発泡ウレタンを全面吹付とした

③照明設備は全てLEDとし、消費エネルギーを大幅に低減させた。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 **3**

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑪内装材は全面的にF☆☆☆☆製品とし、居室の換気は25m³/h人以上とした

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫事務室天井高さ2.7m、OAフロアを採用

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 **3**

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑰鉄骨造で準耐火建築物とした

⑱重要設備機器設置位置、1階床面を浸水予測レベル以上として災害に備えた

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 **2**

■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境 ⑳まちなみ・景観 ㉑地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2017年版v.1.6
MOT再編第一期工事(新厚生棟)

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.6

スコアシート	実施設計段階	重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.8
Q1 室内環境					0.40			3.1
1 音環境				3.4	0.15			3.4
1.1 騒音				2.0	0.40			
1.2 遮音				5.0	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能				5.0	1.00			
1.2.2 界壁遮音性能				-	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-			
1.3 吸音				3.0	0.20			
2 温熱環境				2.7	0.35			2.7
2.1 室温制御				3.3	0.50			
2.1.1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.38			
2.1.2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	0.25			
2.1.3 ソーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	4.0	0.38			
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	1.0	0.20			
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30			
3 光・視環境				2.6	0.25			2.6
3.1 屋光利用				1.8	0.30			
3.1.1 屋光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	1.0	0.60			
3.1.2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-			
3.1.3 屋光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40			
3.2 グレア対策				3.0	0.30			
3.2.1 屋光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	1.00			
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15			
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25			
4 空気質環境				3.9	0.25			3.9
4.1 発生源対策				5.0	0.50			
4.1.1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	5.0	1.00			
4.2 換気				3.3	0.30			
4.2.1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	0.33			
4.3 運用管理				2.0	0.20			
4.3.1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	1.0	0.50			
4.3.2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50			
Q2 サービス性能				-	0.30			3.4
1 機能性				3.3	0.40			3.3
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40			
1.1.1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.33			
1.1.2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33			
1.1.3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30			
1.2.1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.33			
1.2.2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	5.0	0.33			
1.2.3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.33			
1.3 維持管理				4.0	0.30			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50			
1.3.2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30			3.2
2.1 耐震・免震				3.0	0.50			
2.1.1 耐震性		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80			
2.1.2 免震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20			
2.4 信頼性				3.2	0.20			
2.4.1 空調・換気設備		防災	⑯信頼性	3.0	0.25			
2.4.2 給排水・衛生設備		防災	⑯信頼性	-	-			
2.4.3 電気設備		防災	⑯信頼性	3.0	0.25			
2.4.4 機械・配管支持方法		防災	⑯信頼性	3.0	0.25			
2.4.5 通信・情報設備		防災	⑯信頼性	4.0	0.25			
3 対応性・更新性				3.8	0.30			3.8
3.1 空間のゆとり				4.6	0.30			
3.1.1 階高のゆとり				5.0	0.60			
3.1.2 空間の形状・自由さ				4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30			
3.3 設備の更新性				4.0	0.40			
3.3.1 空調配管の更新性				3.0	0.20			
3.3.2 給排水管の更新性				3.0	0.20			
3.3.3 電気配線の更新性				5.0	0.10			
3.3.4 通信配線の更新性				5.0	0.10			
3.3.5 設備機器の更新性				5.0	0.20			

CASBEE[®]横浜 | 評価結果 | 31-061



CASBEE横浜2017年版v.1.6
 MOT再編第一期工事(新厚生棟)

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.6

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	6	バックアップスペースの確保		4.0	0.20	-	-	-		



CASBEE横浜2017年版v.1.6
 MOT再編第一期工事(新厚生棟)

バージョン CASBEE横浜2017年版v.1.6

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目 <非住宅> <集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
		Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	1.9
1 生物環境の保全と創出	地域・まちづくり ⑩生物環境の保全と創出	1.0	0.30	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり ⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮		1.5	0.30	-	-	1.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり ⑫地域性への配慮	1.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ ⑭敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	2.9		
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.5		
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能 ①建物の熱負荷抑制	5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用	省エネルギー性能 ②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	3.6	0.50	-	-	3.6		
4 効率的運用		2.0	0.20	-	-	2.0		
集合住宅以外の評価		2.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	2.0	1.00	-	-	-		
集合住宅の評価		-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.3		
1 水資源保護		2.2	0.20	-	-	2.2		
1.1 節水		1.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減		2.4	0.60	-	-	2.4		
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避		2.3	0.20	-	-	2.3		
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避		2.0	0.70	-	-	-		
1 消火剤		-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)		1.0	0.50	-	-	-		
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.9		
1 地球温暖化への配慮		3.7	0.33	-	-	3.7		
2 地域環境への配慮		2.6	0.33	-	-	2.6		
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮		2.4	0.33	-	-	2.4		
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音		3.0	0.33	-	-	-		
2 振動		3.0	0.33	-	-	-		
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		1.6	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制		1.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-		
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-		
上記以外の重点項目								
<事務用途>								
知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	1.0	-	-	-	-		
<住宅用途>								
健康と安心								
1 化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-		
2 適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-		
3 結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-		
4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	1.0	-	-	-	-		